

文法 2章 文の組み立て

○文の働き

・主述の関係

何が(主語)―どうする、どんなだ

何だ、ある(述語)

「が」に置き換えられる「の」も主語を作る

例 父の 作った 会社 || 父が 作った 会社

・修飾、被修飾の関係

連体修飾の関係 || 体言(名詞)を修飾する関係

例 赤い 車

連用修飾の関係 || 用言(動詞、形容詞、形容動詞)を修飾する関係

例 静かに 話す

・並立の関係 || 二つ以上の文節(並立語)が対等な関係で並ぶ関係

例 長くて 難しい 文章 || 難しくて 長い 文章

並立語は、互いに入れ替えることができる

・補助の関係Ⅱ下の文節がすぐ上の文節に補助的な意味を付け加えている関係。

例 読んで みる(補助語) 絵を 見る(述語)

「て、で」の後に付いていて、意味が薄く、ひらがなで書かれていれば補助語

・接続語Ⅱ理由や条件を示したり、前後をつないで関係を示したりする文節

・独立語Ⅱほかの文節とは直接関係がなく、比較的独立している文節

例 あれ(独立語)、雨かな

○連文節Ⅱ二つ以上の文節が全体で主語・述語・修飾語・独立語・接続語の役割をするまとまりのこと。連文節は主部・述部・修飾部・独立部・接続部となる。

例 補助の関係にあるまとまり

子供が(主語) 歩いて いる(熟語の役割をしているⅡ述部)

○文の成分Ⅱ文を組み立てている成分のこと(主語や修飾部など)

「文の働き」や「連文節」で学んだことを活用して、どの成分に該当するかを考える。